



海老名の花卉栽培ものがたり

戦前 スイートピーとカーネーション
温室栽培は昭和から

海老名の花はほとんどが温室栽培です。大正時代に温室が導入されましたが、当初栽培されていたのはトマトやマスクメロン。花は地熱を利用した半地下式のフレームと呼ばれる設備で栽培されていました。

花が温室で栽培されるようになったのは昭和に入ってからで、温室でマスクメロンとトマトの輪作を行っていた生産者が、冬作のトマトに代えてスイートピーを導入したのが始まりです。戦前まではスイートピーかカーネーションが主流で、スイートピーは大谷・国分・門沢橋・本郷で、カーネーションは河原口・中新田・今里を中心に栽培されていました。海老名のスイートピーとカーネーションは県内で有名になり、特にカーネーションは生産手法などを学びに他市から視察が来るほどでした。

戦後 バラと鉢物
南部が花卉栽培の中心地域に

戦争が始まると、市内の農家は栽培を中断せざるを得ない状況になり、花も例外ではありませんでした。戦後に栽培が再開された頃から、カーネーションの栽培は、門沢橋や本郷などの南部に移っていきました。

昭和40年代に入ると、花の生産者は規模拡大、かゝ中止、かで分かれ、一方では後継者を中心に新たにバラや鉢物の栽培が始められました。バラは昭和40年代後半には新たな品種が次々と導入され、鉢物は草鉢物や菊鉢物を経て次第にシクラメン・ポインセチア・洋ランなど多くの品種が栽培されるようになりました。



昭和53年頃のカーネーション栽培

〈参考資料〉海老名市農協組合史



海老名の 花で心豊かに

圃農政課 ☎(235)8539

贈り手の気持ちを運び、生活に潤いを与えてくれる花。海老名産の花で、彩りある日々を送りませんか。市内では、現在20戸ほどの花卉農家がさまざまな花を栽培しています。市も花に関連した事業を展開しています。ありとあらゆる「海老名の花」を紹介します。

良好なまちの景観づくりのため、毎年、公共施設や歩道の花壇に花の苗を植えています。昨年11月は市役所周辺と、海老名駅西口プロムナードに、パンジーとビオラの花を植えました。花壇の花はことしのゴールデンウィーク頃までまちを彩ります。

花壇苗提供

まちに彩りを



海老名駅西口プロムナードのベンチ型の花壇にはビオラ、市役所庁舎周りの花壇にはパンジーを



心の成長に花の力を

花育

花や緑に触れることで、子どもたちに優しい気持ちや美しさを感じる心を育む「花育」。市は2年前から、海老名産の花を通して「花育」を行っています。生産者に大切に育てられた花は、年3回、市内小・中学校の全クラスに提供されます。種類もカーネーション・バラ・スイートピーと学期ごとに変え、なるべく多くの種類の海老名産花卉に触れる機会を作っています。